

## 局長による序

### 南科チームを率いる活力と実行力

南部科学工業園区管理局 局長 戴謙

2004年を思い返すと、南科は他の国内科学技術園区や工業園区などが打ち出した好条件との戦いに常に直面させられ続けてきた。人材不足等の厳しい環境にある南部地域において、険しい開発の道を少しも緩むことなく進み続けてきた。政府機関国家科学会(以下略して国科会)の全力支持を後ろ盾に、台南県、高雄県政府の協力、南科内企業と従業員一同の努力を得て、多くの歴史的な記録・年度生産高等を樹立した。2004年ハイテクノロジー企業30社の進駐が新たに許可され、総計園区内進駐企業157社となり、計画される投資額は4兆2,086.1億円に達し、その他、研究開発機構3社の駐在も決定され、南科における研究開発資源が更に整ったかと言える。年間営業高は8,301.8億円にもなり、目標額である8,000億円を遥かに超えた、2003年には67%もの成長が見られ、創出した就業機会は32,793人に達し、2003年末より11,419人も増え、例年の5,000人増加より大きく躍進している。その他、台南園区一、二期の土地貸出率は既にそれぞれ95%、100%に達し、高雄園区の土地貸出率は大幅に33%も増加し、総貸出率は62%(租借予定を含む)にも達している。

南科産業形態の発展を概観すると、オプトエレクトロニクス・集積回路とバイオテクノロジーの三大産業がここに一堂に集約された形を見せている。その中、オプトエレクトロニクスは特に整っており、LCD-TV特定専用地区は既に完成され未来に向けて一層の邁進が期待できる。バイオテクノロジー技術産業は台南園区バイオ專業園区・高雄園区バイオ医療技術機材産業專業園区と高雄バイオテクノロジー園区の統括的な設備投資計画の下により、更に、園区駐在中央研究院南部バイオテクノロジー企画センター・国家動物実験センター南部支部などの政府機関研究機構とが協力し合い、よりよい基盤研究チームの形成を期待する。

この他、南科では企業等がより安心して夢を築いていけるように、安全かつ優れた公共施設や勤務環境・警備保全などの施設ネットワーク整備を最優先事項にしている。2004年には高鉄(台湾新幹線)による振動の影響を考慮し、振動減少工事契約がなされた。工事完成後は更なる振動影響のない環境になるであろう。園区内の防災システム・緊急事態対応システム・厳格な品質管理システム等は着実にその高い実施効果を挙げている。

科学技術は常に人間より出発される。科学と文化の発展の均衡・人間性の豊かさ・遺跡保護・先人への畏怖の念、これらは全て我々が持つべき歴史に対する責任であり、子孫へと伝えていくべき精神であろう。我々は景観公園の設置とその永続整備・芸術活動を推進するために、園区内に設立予定されている国立台湾史前文化博物館南科支部の準備に余念がない。南科におけるこれら活動は現在進行形としてだけでなく、将来においても園区が文化的な社会貢献や推進力になろうとしている気持ちの表れである。

南台湾の科学技術園区を更に広げるため、高雄路竹にある南科は加速的に建設が進められている。2004年7月27日に政府機関行政院の同意を得て「高雄園区」と改名し駐在企業勧誘を積極的に進めた結果、2004年12月までに30社もの駐在企業申請が許可され、投資資金予定総額が681.4億円にも上る。将来的には園区内に設置される国家レベルの通信情報技術センターと合わせ、積極的に通信情報産業の発展・集約に働きかけ、台南園区及び近隣園区とが奏功効果が生み出せるよう期待する。

「台湾に根ざし、世界を目指す」ことを目標に、本管理局は2004年にロシア・ヨーロッパやアメリカ・カナダに出向き、誘致活動と人材確保活動を行った。海外機構3社と協力体制の合意を取り付け、世界の科学技術界と緊密な交流関係を結び、南科における優れた将来性と優位性がアピールでき、今後より多くの海外企業の投資を呼び込み更なる経済的発展が望まれ、南科が一層世界レベル的な科学園区へと発展を遂げていく、その大きな一歩を踏み出したと言えよう。

将来においても、我々は南台湾が持つ情熱と地域住民の親切に突き動かされ、南科チームの活力を発揮し、南台湾の科学技術産業の発展に対して一層の努力を続け、「南台湾に根ざし、世界を目指す」モットーを実現していきたい。

戴謙